

1.19 ディープインパクト産駒と Galileo 産駒の比較

以上のことから想像したのは、ディープインパクトには種付初年度から名牝群を非常に積極的に送り込んだということなのかもしれません。

そこで、ディープインパクトおよび Galileo の種牡馬生活の初期、中期、後期の3つに分けて、それぞれのG I 勝ち産駒の母系状況をブレイクダウンしたのが以下の図表6および図表7です。

(※) ディープインパクト産駒の「前期」は2011年以前生まれの20頭、「中期」は2012-15年生まれの20頭、「後期」は2016年以降生まれの19頭。Galileo 産駒の「前期」は2009年以前生まれの35頭、「中期」は2010-14年生まれの33頭、「後期」は2015年以降生まれの35頭。

(図表6) ディープインパクト産駒

	母か祖母に○	母か祖母か きょうだいに○	いずれかに○ ('仔'は除く)
前期 20 頭	6 頭 (30%)	13 頭 (65%)	18 頭 (90%)
中期 20 頭	9 頭 (45%)	14 頭 (70%)	16 頭 (80%)
後期 19 頭	10 頭 (53%)	13 頭 (68%)	17 頭 (89%)
計 59 頭	25 頭 (42%)	40 頭 (68%)	51 頭 (86%)

(図表7) Galileo 産駒

	母か祖母に○	母か祖母か きょうだいに○	いずれかに○ ('仔'は除く)
前期 35 頭	7 頭 (20%)	14 頭 (40%)	17 頭 (49%)
中期 33 頭	12 頭 (36%)	21 頭 (64%)	26 頭 (79%)
後期 35 頭	16 頭 (46%)	27 頭 (77%)	29 頭 (83%)
計 103 頭	35 頭 (34%)	62 頭 (60%)	72 頭 (70%)

上記を見て思うのは、両者ともに前期より中期、中期より後期において「母か祖母に○」の割合が増えているということです。種牡馬としての確たるブランドができあがった後は、着実に名牝が集まってきたということなのでしょうか。しかし、もしそうだとしたならば、そのブランドができあがった後はもっともっと多くのG I 馬を出してもいいはずではないかという見方もあり、こればかりはなんとも言いきれません。

いずれにしてもディープインパクトは、前期においても「いずれかに○」の割合が非常に高いということです。

一方で、あらためて図表5を眺めると、中期以降のGalileo 産駒の「きょうだい」「おじおば」「いとこ」の欄に○が非常に多いように見受けられます。上述のとおり、俗に言う良血の度合は「母」が最も高いと見なしうるので、この表の左の列と右の列の○の重みはそれぞれ違うのですが、そこを度外視して、次頁の図表8で単に○の数だけを非常にざっくりと比較してみました('仔'の○は除く)。

Galileo 産駒の1頭当たり○の数は前期では少ないものの、中期からの数は非常に多くなり、1頭当たりの○の数は最終的にディープインパクト産駒をはるかに上回ります。Galileo という種牡馬はもしかしたら叩き上げかもしれないと先には書きましたが、この図表8からもそんなことが推量できるのかもしれません。

確かに以上はG I を勝った産駒にのみ焦点を当てた場合であり、本来であれば産駒全体(配合例全体)を眺めなければならないのかもしれませんが、その傾向はうかがえたと思います。